

会派視察・研修報告書

会派名 公明党

代表者名 寺島 芳枝

1 日にち	令和 2 年 1 月 23 日 (木)
2 視察先	三重県 いなべ市役所 13:30～15:30
3 参加者	寺島 芳枝 ・ 渡部 昇 ・ 片山 竜美
4 調査テーマ	・ 楽器寄附によるふるさと納税の仕組みについて ・ 新庁舎整備（にぎわいの森）について ・ SDG s の取り組みについて
5 主な内容	・ 楽器寄附によるふるさと納税の仕組みについて 企画部政策課 佐藤祐孝氏 ・ 新庁舎整備（にぎわいの森）について 総務部管財課 瀬古克成課長補佐・企画部政策課 栗嶋 幹人氏 ・ SDG s の取り組みについて 企画部政策課 栗嶋 幹人氏
6 所感、提言事項、課題等	【寺島芳枝】 ・ 中学校における吹奏楽部は地域の行事等にも花を添えてくれ、なくてはならない存在となっている。しかしながら、楽器は高額であり創部以来 30 年大事に使用しているものもあると伺った。 TV 等で話題になっていた、新しいふるさと納税スタイル。H29 年 10 月、吹奏楽部を維持するには楽器が足りないとの予算確保依頼。現実には特定のクラブだけに多額の予算を投じることは難しい。そこで創意と工夫と熱意で仕組みを作り実施をしている職員さんに、お話を伺いたく赴いた。期待以上の情熱で取り組まれる姿には感動した。H30 年 10 月より寄附の受付開始。令和元年 8 月には、全国展開に向けた自治体向け参加説明会の実施。清須市、松浦市（長崎県）など 1 町 4 市が楽器募集を開始している。まだまだ未知数の楽器が眠っている。是非、参加をして子ども達に思いの詰まった贈り物が届けられる様に望む。 ・ 高速道路の新たな接続地ができる地の利の良さも念頭に、新庁舎と市外からの集客を見込んだにぎわいの森づくりの視点は圧巻。新庁舎建設に市民の期待に応えるコンセプトが欲しい。本市と立地も違うが人の流れが欲しいと思う。 【片山 竜美】 < 楽器寄附ふるさと納税 > ・ 校長先生や子どもたちの思いに応えようとする担当職員の熱意や情熱を感じた。1 つの事業を起こすことは大変なことであるが、その大変さを喜びに変えて取り組んでいるところが素晴らしい。

6 所感、提言事項、課題等

- ・本市の中学校に聞いてみたが、楽器はいくらあっても足りない状態。そのことを思うと、ぜひ多治見市でも取り組んでいただきたい。

<新庁舎建設とにぎわいの森>

- ・市民や議会とかなりの時間をかけて論議してきた経過が伺えた。低層階であることや、1階に市民がいつでも使える部屋など、市民目線のつくりとなっていた。
- ・にぎわいの森を拠点にして、観光客を呼び寄せている。出店先も地産地消など、こだわりの店が出店しており、平日でもにぎわいをみせていた。その影響か、人口減少もかなり抑えられてきている。
- ・新庁舎建設に向けて、学ぶべき点は多くあった。

<SDGs への取り組み>

- ・市が行うすべての事業に対して、SDGs と結び付けていた。こうすることで、市民の行動が、地球のために行っているという意識に立つことができる。また、考える視点がよりグローバルになり、新しいアイデアも生まれる可能性があると思った。

【渡部 昇】

*楽器寄附によるふるさと納税について

- ・楽器寄附とふるさと納税を全国発に考案し、全国の楽器に対応できる。楽器査定事業者を選定し、楽器寄附ふるさと納税専用ホームページを委託し、全国の使われなくなった楽器をいなべ市の教育機関に寄附をすることにより、楽器査定額が税金控除される仕組みであり、いなべ市の中学の演奏会に招待され子ども達との心のふれ合いが浮かぶ内容でした。

*新庁舎整備と「にぎわいの森」について

- ・R1.5.7 に開庁した新庁舎は、来庁者に分かりやすい庁舎でエントランスホールに吹抜けを設け、建物に入った瞬間、庁舎内全容が見渡せます。議場には親子席や車椅子用のスペースを設けるなど、どなたでもお越し頂きやすい市民に開かれたつくりになっていた。

木をふんだんに利用し、いなべ市になじみのある素材を利用した庁舎で、非常用発電機は浸水の影響を受けない屋上に設置し、安心安全の庁舎であった。

*にぎわいの森について

- ・新庁舎の前になぎわいの森が設置されている周りは植物園のよう

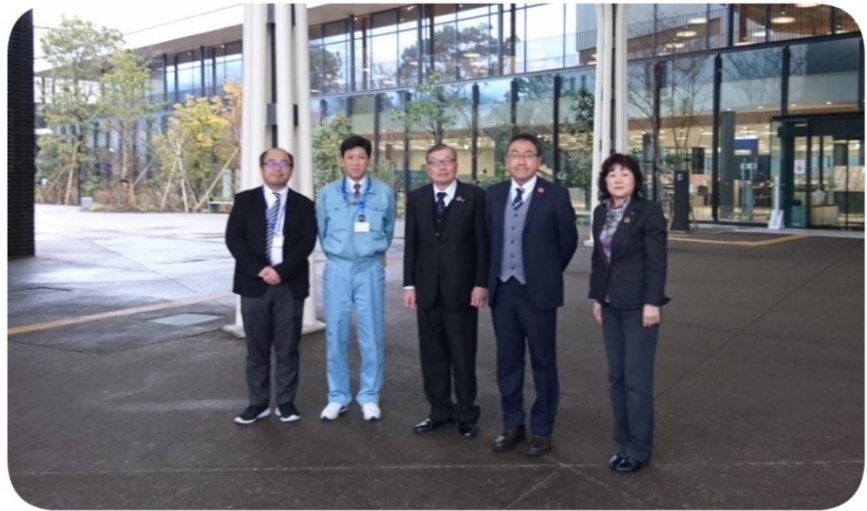
でレストランやコーヒー店、食肉加工屋、魔法のパン屋など多くのお店があり 7 ヶ月間で 345,611 人が来場され大交流時代が訪れている。

*SDGs といなべブランドの推進

- ・SDGs の視点を取り入れた、持続可能ないなべブランド事業をいなべブランド冊子として出している。SDGs の 17 の目標が分かりやすく表示してあり、大変参考になりました。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。